

令和6年度 高千穂町立押方小学校 学校評価書

【本年度の学校経営ビジョン】

- 児童一人ひとりの人権尊重とよさや可能性を最大限に伸ばす教育
- 学校と家庭・地域が連携した安心・安全な「地域とともにある学校」
- 互いに協働し、一丸となって学校力の向上に努める教職員集団

() は前年比

| 重点指導事項 | 手段・ゴールイメージ | 自己評価 | | | | 結果の考察・分析及び改善策等 | 学校関係者評価コメント(○:成果 ●:課題 ※:意見) |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|----------------|-----------------|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | 児童 | 保護者 | 教職員 | 総合 | | |
| 1 自他の生命の尊重 | ○命についての指導を充実させ、学校評価において「自分や友達の命を大切にしている」と評価する割合が8割以上を目指す。 ○人権教育の指導を充実させ、相手を思いやる心を通して「自分や友達の命を大切にしている」と評価する割合が8割以上を目指す。 | 96.8 (+1.8) | 84.5 (-5.3) | 87.5 (+12.5) | 89.6 (+3.0) | ◇自分や友達の命を大切にしている子どもが多いことが分かった。人権教育集会や人権の花運動、7月の命の教育週間、全校朝会での話など、全教育活動で命を大切にする指導を行うことができた。 ◇目標は達成しているが、子どもの自己評価と比べて大人側の自己評価がやや低いので、人権教育に関する研修や家庭教育学級で取り上げることなどを通して、より具体的に効果的な子どもへの関わりができるようにしていくとよい。 | ○人として一番大切な取組である。指導に当たられている先生方の根気強い精神が児童に伝わっていると思う。 ○命の大切さを分かっている子どもたちが多いことは大変喜ばしいことだと思う。 ※命の大切さは学校、家庭でも十分に教えていることと思う。最近の地震においても身を守る体験をしたことと思う。また、登校時の会話の中でも友達の体調に気遣う姿をうかがうことが多々ある。 ※家庭内での親子の会話がゲーム等の時間に奪われている。親子、家族での会話の必要性、接し方、教育の場が必要である。 ※大人と一緒に命の大切さを考える必要がある。 |
| | ○ひなたの学びを推進して意欲的に学習に取り組む児童の育成を目指し、「主体的に授業に取り組んでいる」と評価する割合が8割以上を目指す。 | 90.8 (+3.0) | 77.5 (-7.8) | 91.8 (+12.5) | 86.7 (+2.6) | ◇保護者の評価が低いのは、授業以外で家庭学習も含めた学習への意欲について回答した可能性もあるので、アンケートでの尋ね方を再検討する必要がある。授業においては、子どもと教師の評価からは目標を十分達成できたと考える。来年度もひなたの学びを継続して実践していきたい。また、複式学習指導の充実を目指し、子どもが主体的に学ぶように授業実践していく。 | ○学習参観を何度がしたが、先生の児童への行き届いた目配りや学習指導や児童の学習姿勢、態度がとてもよく安心した。 ●今後アンケートの尋ね方を再検討し、保護者の評価について見直す必要がある。 ●「ひなたの学び」というものがいまいち分からない。 ※来年度から全学級複式学習になるので家庭学習の充実が大事になると思う。学力の格差が心配である。 ※小規模校のよさ、メリットに対し、先生への負担増と併せてよい意味での競争意識の必要性が欲しい。 |
| | ○きめ細かな指導・支援や授業改善を通して、学習内容が「わかる」「できる」と評価する割合が8割以上を目指す。 | 93.3 (+4.0) | 89.8 (-4.7) | 91.8 (+8.5) | 91.6 (+2.6) | ◇保護者による学習結果の把握がやや落ち込んだものの、全体的にはよくできている。次年度は全学級が複式学習指導になるので、校内研修を通して授業力の向上を目指していきたい。 | ○立派な評価だと思う。 ○小さな学校だからこそそれぞれの能力や学習向上に取り組んでいることにうれしく思う。 ※来年度から全学級複式学習となり、先生方の負担が大きくなると思うが、引き続ききめ細かな指導をお願いしたい。 ※複式のよさを十分に生かせるように先生たちには頑張ってもらいたい。 |
| | ○進んで本に親しみ、読書を楽しむ児童の育成を通して、「読書がすき」と評価する割合が8割以上を目指す。 | 87.5 (+0.2) | 69.0 (-7.5) | 95.8 (+8.3) | 84.1 (+0.3) | ◇保護者による評価が低かった。家庭での読書が保護者にとっては物足りないのかもしれないが、学校では図書主任を中心に様々な取組を行ってきたので、来年度もそれを継続したり、学校で読書に親しんでいる様子や読書量などを懇談会等で情報発信したりしていきたい。また、親子読書などの取組も継続し、家庭での読書活動を推進していきたい。 | ※今の時期になぜ読書の必要性があるかということを指導してほしい。認知的な指導をしてほしい。 ※読書は国語力が大事であり保護者の方も気になるところだと思う。家庭での根気強い取組を頑張ってほしい。 ※本を読む大切さ、読書大好き運動を推進していく。 ※家庭での読書はなかなか難しいが、学校でそのような時間があるのはとてもありがたい。 ※月に1回の読み聞かせの時間がある。感想の中で「本が好きになり読み聞かせのある日が楽しみです。」とうれしい言葉をもらい、少しでも役立っていることに私達も感謝している。 |
| 2 学力の向上 | ○進んで宿題や自学などの家庭学習に取り組む児童の育成を通して、「家庭教育に進んで取り組んでいる」と評価する子どもの割合が8割以上を目指す。 | 92.5 (-0.3) | 81.0 (-8.0) | 91.8 (-4.0) | 88.4 (-4.1) | ◇全体的に前年比はマイナスになったが、目標は達成できたと考える。年度当初に家庭学習の定義や望ましい家庭学習の在り方、町全体でタブレット持ち帰りを許可していないこと等を保護者へ伝え、各家庭で子どもたち一人一人がその子にあった家庭学習ができるような素地作りを行いたい。子どもの学習を各家庭で見届けてもらえるように保護者への啓発を継続していきたい。 | ○よい結果だと思う。 ※連絡帳の利用等で学校と家庭の連携を強化する。宿題の必要性を学校と家庭で共通理解する。 ※家庭学習の見守りが大事である。 ※高学年につれて、どんな宿題が出されているか分からない。(子どもが言わない) ※児童クラブを利用している子どもたちは宿題を終えて帰ってくると思う。家庭でも目を通し確認が必要である。 |
| | ○すこやかや週間の取組や保健だよりの充実を図り、家庭と連携してよりよい生活習慣の定着を通して「基本的な生活習慣ができています」と評価する割合が8割以上を目指す。 | 80.8 (-2.7) | 76.8 (-3.2) | 91.8 (+11.8) | 83.1 (+1.9) | ◇教職員は基本的な生活習慣について十分指導しているのとらえているが、それが学校や家庭において実践化できるまでは至っていない子どもが少なくないのではないか。根気強く指導を継続していきたい。 | ※大変だと思うが、継続指導をお願いしたい。 ※各家庭で差があると思われるが、各家庭にもっと啓発していく必要があると思った。 ※日頃の生活習慣が大事である。しっかり身に付けるよう言葉かけをしている。 ●児童、保護者ともに評価点が低いのが気になる。健康面なのか安全面なのか分からないので、具体的に教えてもらいたい。 |
| 3 健康・安全の充実 | ○体力向上プランに基づき体育指導を行ったり、外遊びを励行したりして「運動がすき」と評価する割合が8割以上を目指す。 | 93.3 (なし) | 82.8 (なし) | 95.8 (なし) | 90.6 (なし) | ◇体力テストの結果では、A判定の子どもも多く、運動を親しむ姿が多く見られた。今後も体育指導の充実を図ったり、昼休みの外遊びを促したりしていきたい。 | ○児童、先生方の評価が高いので、立派だと思う。 ○素晴らしいことだと思う。 ※外遊びから体を動かす楽しさを学び、運動好き・体育好きになることはよいことだと思う。 ※今後も継続指導をお願いしたい。 ※「昼休みのサッカーが楽しかった。」と帰ってくる。先生たちと遊ぶことが一番楽しいようだ。 |
| | ○メディアコントロールについて子どもや家庭に啓発を図り、「メディアについて家のルールを守っている」と評価する割合が8割以上を目指す。 | 88.3 (-3.2) | 61.3 (-9.7) | 91.8 (+11.8) | 80.5 (-0.3) | ◇子どもと保護者の評価に大きな差が見られる。昨年度よりも保護者による評価は下がっているので、メディアについての家庭や高千穂町のルールを再確認することや、ルールを守るために自己抑制できるような指導を行いたい。 ◇2月参観日に行う予定の戸数教育長による講話を保護者と高学年児童が聞くことで、メディアコントロールについての意識付けを行い、家庭生活に取り入れようとする意欲の向上を図り、保護者も一緒になって実践化を目指す。 | ※メディアコントロールについて行っている内容を具体的に知りたい。 ※学校での指導はなされているが家庭での保護者対応が不十分で、保護者、本人がメディアコントロールできていない状況があると思う。この項目は他の重点指導事項にも関係するものであり、外部有識者を招いて講話をすることはありがたい。単年度で終わらず継続することが大事だと思う。 ※メディアコントロールは各家庭ごとのルールとなるので難しいことだが、子どもたちへの自己抑制の指導を引き続きお願いしたい。 ※メディアコントロールが今一番難しい問題だと思う。まずは大人が見本を見せないと子どもは分からないと思う。 ※ルールは必要。室内で過ごす時間が増えたと人との接触、生活リズムも悪くなり視力低下など身体に悪いことを分かってほしい。戸外での活動にエネルギーを燃やしてほしい。家族でしっかり話し合いたい。 ●子ども、保護者に対する講話の場に家族も入れて欲しい。 |
| 4 学校頼づくれる | ○地域素材や人材を生かした教育活動を充実し、「地域のことがすき」と答える割合が8割以上を目指す。 | 96.8 (+0.3) | 82.0 (+2.0) | 91.8 (+8.5) | 90.2 (+3.6) | ◇地域素材や地域人材を有効に活用したり、高千穂グローバルの授業を実践したりして、押方小ならではの郷土学習を充実させていきたい。 ◇高千穂検定を中学年に位置付け、高千穂GLOCALの教育活動を推進していきたい。 | ○高千穂検定への取組は最高である。押方小だからできることを他校に先行して挑戦して欲しい。 ○立派である。郷土に溶け込む学習を児童が学んでいると実感する。 ※高千穂(押方)の郷土学習から地元の魅力を発見し、郷土愛を育むことになる。 ※押方小は大変恵まれた環境だと思う。 ※いろいろと協力、参加できることをこれからも続けていけたらいいなあと思う。 |
| | ○学校便りやホームページ、各種通信等を通して、保護者や地域の方々への情報提供の充実を目指す。 | 85.8 (-10.7) | 88.0 (+8.0) | 97.0 (+13.7) | 90.3 (+3.7) | ◇学校からの情報発信はよくできており、保護者にもそれが十分伝わっていると考ええる。今度も継続していきたい。 | ○立派だと思う。 ※継続は力なり。応援しています。 ※これまでの情報発信を引き続きお願いしたい。 ※様子が分かり楽しんでいます。 ●ホームページをもっと見てもらえるように工夫が必要だと思う。 |
| 考察欄 | ・4つの重点指導事項について学校で行っている取組や子どもの様子等を保護者や地域がもっとよく分かるように情報発信して広報に力を入れてほしい。 ・新聞等のメディアに子どもたちの作文や俳句等が載ると大変うれしい。今後も作品投稿などに力を入れてほしい。 ・高千穂町内のあらゆる場所に可能な限り出かけて、そこで体験的に学ぶ機会を行い、高千穂町のことをもっと知って誇りに思ってもらいたい。 | | | | | | ・メディアコントロールについては、各家庭での取組を情報交換しながら、継続して取り組んでほしい。 ・学校運営協議会委員は原則決まった役職の人が入るようにして、複数年のスパンで学校へ意見が言えるようにする。 ・それぞれの立場でどんな子どもに育ててほしいか考え、しっかりと熟議して共通の目標を設定したい。 |